



練馬区立石神井東小学校

令和3年度

学校便り

6月号

校長 赤尾 眞司

開校144年目の石東小の歴史（昭和20年から現在）

校長 赤尾 眞司

5月18日は本校の開校記念日でした。石神井東小学校は、明治11年（1878年）5月18日に、長命寺の境内に仮校舎を置き、谷田（こくでん）小学校として開校しました。その後昭和31年まで、現在の順天堂病院の位置に石東小がありました。子供たちには全校朝会で開校から現在までの話をしました。また、学校だより令和2年度10月号では、本校の開校から昭和前半までの歴史を掲載しました。今回はその続きです。

つらく長かった戦争が昭和20年8月15日に終わり、疎開していた子供たちも秋には東京に帰ってきました。本校は、昭和22年4月1日に校名を東京都板橋区立石神井東小学校と改め、また、新しく開校した石神井東中学校も階上の2教室を使用しての開校となりました。6月には練馬区が板橋区から独立したため、校名も今と同じ練馬区立石神井東小学校となりました。翌年には、石神井東中学校が新しい校舎に移りました。給食は昭和25年10月に、パン食で始まりました。

昭和31年3月に、学校が移転します。石神井東中学校と校地を交換して、現在の場所に移ってきました。当時の様子が次のように書かれています。

『実際の移動は、昭和31年3月28日に行われました。当日は素晴らしく良い天気です。父母・先生総動員でトラック20台を往復させて、ピアノ・机・腰掛等の備品全部を一日で移動しました。移転当時の校舎は、平家建ての病院に使われていた建物です。でも、次々と二階建てペンキ塗りのきれいな校舎に改築されました。また、他の学校に先がけて、鉄筋の講堂兼公民館分館が新設されました。この建物には畳敷きの広い日本間もあり、地域の方々も使えるようになっていました』

昭和33年11月には創立80周年記念式典が挙行されます。その時に、石神井東小学校の校歌が制定、発表されました。校歌を作詞された西條八十さん、作曲された佐々木すぐるさんも創立記念式に参加されました。



昭和33年 校歌制定の発表会

写真は式の中で校歌を披露している様子です。指揮をされているのが、作曲された佐々木すぐる先生です。この頃は、本校では鼓笛隊の練習を盛んに行っていたようです。昭和34年には、ハワイ海兵隊鼓笛隊を招聘して、校庭でパレード演奏が行われました。グラントハイツアメリカンスクールの児童も見学したと記録されています。また、その年の国体に、本校鼓笛隊100名が参加しています。

戦後の児童数の増加にともなって、石神井東小学校から分かれていった学校もあります。昭和30年には光和小学校、32年に谷原小学校、43年に南田中小学校、48年に富士見台小学校、51年に南が丘小学校がそれぞれ開校しています。石神井東小学校の児童数が一番多かった年は昭和47年で、学級数38、児童数1590名、区内第一の大規模校になりました。現在の3倍の規模でした。

昭和30年代後半から校舎の増築が始まります。昭和42年には南校舎の一部（職員室、放送室まで）が、翌年にはプールが完成します。その後南校舎が増築され、昭和51年には北校舎、体育館の増改築が完成し、現在の校舎となりました。その後、ランチルーム、図書室、和室、パソコン室、ふたばルームなどが開設され、校舎の色も桜色（南校舎）と若草色（北校舎）に塗り替えられています。

職員室前の校庭には、三本桜があります。この三本桜は二代目で、開校120周年を記念して植樹されました。初代の三本桜は、旧石東小（順天堂病院の場所）の正門に、威風堂々とした姿を誇っていました。現在の場所に植樹したのは、たくさんの卒業生の思いがあったからです。

それは「自分や他者を大切にすることを育んでもらいたい」「自分の夢や目標をしっかりとって、追求してもらいたい」「心も体も健康に、たくましく生きてもらいたい」という思いです。

長い伝統を受け継いできた1万人を超える卒業生、地域の方々、保護者や教職員の思いをしっかりと受け止められる子供に育ってほしいと願っています。

【参考資料：本校100・140周年記念誌、学校沿革史】